

# 平成 29 年度事業報告

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

## 【概況】

当法人は、昭和 39 年 1 月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。

本年度も禅文化の普及に努め以下の活動を行なった。

禅文化の普及事業（公益目的事業）では以下の活動を行なった。

調査研究活動では、中国禅宗史・禅語録研究班をはじめ各研究班が従来通りの研究を継続、成果としての刊行にむけての作業を進めている。

資料収集・資料公開活動では、デジタルアーカイブスとして禅宗寺院が所蔵する文化財を電子データとして記録し保存する事業を本格化し、一般寺院所蔵の宝物のデジタルアーカイブ整備事業も進んでいる。29 年度は静岡県方広寺や京都府円福寺、愛知県徳源寺、滋賀県瓦屋寺などの所蔵品の悉皆調査を行なった。

広報・普及活動では、公開講演会や、様々なメディアを利用して禅文化の普及に努めた。書籍等の刊行として『臨濟録』研究の現在』、『訓注懶斎集』や『2018 年禅語こよみ』などを刊行した。

収益事業では、宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売やサポート、臨濟宗や他宗派の宗務所管理システムの機能追加への対応や保守サービスなどを行なった。

共益事業では、遠諱事業を中心とした臨黄合議所関連の業務を行なっている。

## I. 禅文化普及事業（公益目的事業）

### 〈1〉 調査・研究活動

#### 1. 中国禅宗史・禅語録研究班

当法人は、設立以来語録研究班を組織し、禅文献のうち最重要とされる中国唐宋時代の禅語録を継続して会読している。これらは禅の語録を、唐代・宋代の中国語の口語研究を踏まえ、語彙や文体の変遷と思想史の脈絡にしたがって読解してゆくものである。その成果は、唐宋の思想史解明に新たな観点を提供するものとなり、また、唐宋の口語研究に寄与するものとなる。

参加メンバーは仏教学、哲学、文学、中国語学などの研究者や学生、一般からの参加者などで構成され、学際的な雰囲気の中で研究が行なわれている。

唐代語録(『祖堂集』)研究会〔班長 西口芳男〕

『祖堂集』は『景德伝灯録』の編集に先立つこと 52 年、完存する禅宗灯史の書としては現存最古のものであり、現代の禅に直結する唐五代の禅の資料の古層をなすものとして貴重である。北宋初期の当時の最高の知識人の刊削裁定を経た『伝灯録』に比べて、野趣に富んだ生の資料を提供してくれるものであり、口語研究の資料としても、近年、とみに注目を集めている。既に 40 年前、この研究班では、入矢義高・柳田聖山の指導のもとに読まれ、当時の原稿によって『訓注祖堂集』（国際禅学研究所報告第 8 冊、2003 年）として当時の成果が発表されている。今回は『祖堂集』を成立させた福州の雪峰教団の禅師をメインにして深く読み進め、『祖堂集』成立の背景を探ることを目的とする。

今年度は、巻十一の保福和尚章第二三則より読みはじめ、第五二則までの計二十八則を読み進んだ。また「『祖堂集』巻一〇訳註（二）」として鏡清和尚章第一則～第一〇則までの訳註を『禅文化研究所紀要』第 34 号（本年六月ごろに発行予定）に掲載する。

研究会の開催日は、2017 年 4/28、5/12、5/26、6/9、6/23、7/14、10/13、11/10、12/8、12/22、2018 年 1/12、1/26、2/9、2/23、3/23。

講師：衣川賢次（花園大学教授）

班員：川島常明（大通院住職）／松岡由香子（山水庵庵主）／千田宗琢（花園大学非常勤講師・国際禅学研究所研究員）／久保讓（花園大学科目等履修習生）／鈴木洋保（花園大学非常勤講師）／鈴木史己（南山大学講師）／土屋昌明（専修大学教授）／小川太龍（花園大学非常勤講師・国際禅学研究所研究員・常楽寺）／小宮山祥広（仏楽学舎）／呉進幹（杭州佛学院留学生・花園大学博士後期課程：戒法法師）／林芬妙（花園大学博士後期課程：台湾留学生）／川野晃斉（花園大学修士前期課程）／陳菲（花園大学修士前期課程：中国留学生：法名空慧）／藤田和敏（相国寺寺史編纂室研究員）

#### 「神会語録」研究会〔班長 西口芳男〕

敦煌写本禅宗文献の中で最も重要なものの一つに神会関係のものがある。神会の語録の校訂本には、つとに、胡適氏、鈴木大拙氏のものがあるが、敦煌博物館本やいくつかの断片写本が出揃うと、従来の校定には限界のあることがわかり、新たな定本、正確な訳文、詳細な注釈の作成が待たれていた。本会ではこの点を重視した読解を進めてゆく。

今年度は、休会となった。

班員：衣川賢次（花園大学教授）／中島志郎（花園大学教授）／北畠利信（花園大学非常勤講師）／松岡由香子（山水庵庵主）／千田宗琢（花園大学非常勤講師・国際禅学研究所研究員）／久保讓（花園大学科目等履修習生）

#### 「景德伝灯録」研究会〔班長 西口芳男〕

禅語録中、最も基本的かつ重要な文献である『伝灯録』全 30 巻を、近年の日中両国の中国口語史研究の成果を踏まえて、千八百の古則公案といわれる問答の一つ一つの意味を解明することに重点を置き読解を進めている。

今年度は、曹山本寂章最後の一則より洞山道全禅師章・龍牙居遁禅師章・華嚴休静章・蜆子和尚章・九峰普満大師章・台州幽棲道幽禅師章までを読み進んだ。また「『景德伝灯録』巻十七雲居道膺章・曹山本寂章訓註」として『禅文化研究所紀要』第 34 号（本年六月ごろに発行予定）に掲載する。

研究会の開催日は、2017 年 5/28、7/23、9/11、11/26、2018 年 1/7、3/25。

班員：衣川賢次（花園大学教授）／松岡由香子（花園大学非常勤講師）／千田宗琢（花園

大学非常勤講師) / 久保讓 (花園大学科目等履修習生) / 三浦國雄 (大東文化大学教授) / 土屋昌明 (専修大学教授) / 下定雅弘 (岡山大学教授・北京事務所長) / 末木文美士 (国際日本文化研究センター教授) / 齊藤智寛 (東北大学準教授) / 石野幹昌 (名古屋大学大学院博士課程) / 石井修道 (駒澤大学教授) / 小川隆 (駒澤大学教授) / 須山長治 (駒澤大学非常勤講師) / 中木 愛 (龍谷大学専任講師) / 吳進幹 (杭州佛学院留学生: 花園大学博士後期課程: 戒法法師) / 林芬妙 (花園大学博士後期課程: 台湾留学生) / 亀 滋廣 (平林寺僧堂教育研究主任・東京禅センター補佐員)

## 2. 禅宗經典研究班

禅文献に関わる經典類のうち、これまで未開のものについて独自の研究を進めると共に、臨濟宗で常用される經典についても、現代に即した内容や形態は何かを究明し、一般に普及する方策を考える。

### 「楞伽經」研究会 [班長 常盤義伸 (花園大学名誉教授)]

禅文献と深い関わりをもつ『楞伽經』研究は、学界の未開分野とも言われ、長い間、十全な研究がなされてこなかったが、常盤義伸教授は、『楞伽經』四卷本を基に、南条文雄博士校訂梵文を再構成し、世界で初めて完全英訳・和訳を成し遂げた。

本研究会は、常盤義伸著『楞伽宝經四卷本の研究』をテキストとして、梵本と求那跋陀羅三蔵の漢訳本を対比しながら読み進めている。

本年度は常盤義伸教授によって四卷本『楞伽經』の「復元梵文テキスト」及び「復元梵文テキスト和訳」が完成した。また「復元梵文テキスト」の校正が小嶋孝氏によって行われた。

班員: 西口芳男 (禅文化研究所) / 小嶋孝 (東洋大学大学院哲学専攻・仏教学専攻博士前期課程終了) / 種村辰男 (塾講師、FAS協会会員) / 嶋本浩子 (日本経済大学神戸三宮キャンパス非常勤講師)

### 臨濟宗經典研究 [班長 西村惠学]

現代の臨濟宗で常用されている經典について、その声明や經本を中心に整理し、現代人に受け入れやすいものを考え、一般に普及するような方策を考慮して制作する。

今年度は妙心寺派梵唄講師である吹田良忠師の指導のもと、『江湖法式梵唄抄』の改編を行ない、30年4月に刊行した。

## 3. 哲学研究班 [幹事 森 哲郎]

平成29年度も、「大蔵会」としての仏典研究会を上田閑照先生の指導のもと年4回ほど開催した。長期に渡る「華嚴五教書」の講読研究完了(平成24年2月24日)の後は、新たな仏典研究会として、世親の『唯識三十頌』の講読研究をほぼ1年間継続し、その読了後は、『成唯識論』に取り組んでいる。チューターは大井和也氏が務め、5月14日、7月27日、11月3日、1月21日の4回、実施した。参加者は十数名であるが、各自熱心にとり組んでいる。

なお同じく上田先生の指導のもと、西田哲学研究会と西谷研究会も各通年4回の頻度で継続している。西田哲学研究会では、目下、主著の『働くものから見るものへ』の「場所」論文に取り組んでいる。西谷研究会では、夢窓国師の『夢中間答』を輪読した後に、西谷先生の後期の作品の講読研究として、目下、『禅の立場』に挑戦中である。

#### 4. 日本禅宗史・禅語録研究班

日本の伝統教団を形成した祖師たちの伝記や語録を体系的に整備し、現代的に解釈することを目的とする。班員は所員を中心としたメンバーで構成する。

##### 江湖開山等語録研究〔担当 能仁晃道〕

臨済宗各派寺院の協力により、開山・中興開山等が残した語録類を整理し、訓注を行なう。本山以外の寺院に残る語録類の訓注は、殆どなされておらず、日本禅宗史上重要なものが多い。今年度は、妙心寺派平林寺中興開山鉄山禅師の語録『懶斎集』を遠諱記念として平成 29 年 10 月に刊行したほか、徹翁義亨『徳禅寺法度』および仙台藩四代藩主、伊達綱村公の『如幻三昧』の訓注を行なった。

##### 天龍寺史研究班〔担当 藤田琢司〕

大本山天龍寺の委託を受け平成 28 年度より発足。慶長 6 年（1601）以降の天龍寺関係史料を年代順に収める『天龍寺史』近世編の編纂作業を行う。基礎作業として『年中記録』を初めとする寺蔵の近世記録・文書の整理および内容把握を行った。寺外所蔵史料の調査も必要に応じて行う予定。また人員を補充し、中世編の編纂作業も開始した。

夢窓録研究会を 4 月 12 日・6 月 12 日・10 月 11 日・12 月 13 日・2 月 14 日の 5 回、天龍寺史編纂室を会場として開催し、開山夢窓疎石の『夢窓国師語録』の読解を行った。管長・宗務総長・教学部長ほか山内の僧侶、および山外の研究者が出席、藤田がレジュメにて報告し、禅文化研究所西口が補足報告を行なった。将来は本研究会の成果をまとめ、従来一部のみで刊行に留まっている『夢窓国師語録』上下 2 巻全体の訓注の完成・刊行を目指す。

また天龍寺所蔵の明版大蔵経・黄檗版大蔵経の保存状態に問題があるため、現在整理および保存のための必要な措置を施しつつある。

##### 『延宝伝灯録』研究〔担当 阿部理恵〕

日本の禅僧・居士ら約千人の伝記を、元師蛮が撰述した『延宝伝灯録』の訓注作業を行なう。本書は江戸時代までの日本禅僧の伝記の集大成として位置づけることができるが、歴史学の成果に加えて難解な禅語の知識が不可欠であったため、従来訓読等が刊行されたことはなかった。今年度は内容見直しのため休止とした。

#### 5. マルチメディア研究班〔班長 西村恵学〕

印刷物をはじめ、音声、映像、ホームページなど、多様なメディアを通して現代人に禅をわかりやすく伝える方策を研究する。平成 29 年度には、禅のこころを生かしたミニ・カレンダーである「2018 年禅語こよみ」（野火止平林寺所蔵品より）を刊行した。

また、平成 30 年 4 月に妙心寺派管長になられる岐阜瑞泉僧堂師家・小倉宗俊老師にお願いして「DVD 禅僧が語る」の収録を行なった。平成 30 年 5 月刊行予定。

## 〈2〉資料収集・資料公開活動

### 1. デジタルアーカイブス

禅の文化として大切に遺されてきた書画を中心としたアーカイブを、劣化しないデジタ

ルデータとして保存していくことを目的とする事業。一応のデータ収集までに概ね7年を目途として活動している。

将来的には、以下のような事業を通して蓄積した画像と資料に基づいて、「禅文化財WEB博物館」（仮称）を制作し、国内外にバーチャル博物館として、禅の文化財を紹介していく事業として展開したい。

### 「禅の至宝」(文化財目録整備事業)

各派本山や、文化財を多数所蔵する由緒寺院の宝物を、保存性や再現性に優れた電子データで記録し利用するための「デジタルアーカイブ 禅の至宝」を、23年度から運用開始。協力の得られた寺院に撮影に出向くなどして、絵画・墨蹟類を中心にデジタル写真に撮影しデータベースに保存している。また同時に、専門分野の学芸員に依頼してそれらデータの目録情報を入力。

平成29年度には、大本山方広寺の所蔵品悉皆調査を継続中。ほかに、滋賀県の瓦屋寺（妙心寺派）、八幡の円福僧堂（妙心寺派）、熊本の見性寺（妙心寺派・花園大学歴史博物館に寄託中）、建仁寺塔頭両足院の悉皆調査（書籍を含む）の調査も開始。大本山南禅寺からの調査要請も受け付けて、平成29年度から着手予定であったが、方広寺調査が年度内に完了しなかったため、翌年度に着手を延期した。なおこれらのデジタルアーカイブス調査は、花園大学歴史博物館と強く連携して活動している。また、両足院所蔵書籍のデータ化については、駒澤大学の禅ブランディングプロジェクトと協力し、相互補完することになっている。

### 一般寺院什物データベース

①に連携するために優品を有する寺院所蔵の宝物のデジタルアーカイブ整備事業として、簡易なデータベースを内部で開発構築し販売を開始しているが、上記の文化財目録整備事業における調査を行なった当該寺院に、このデータベースシステムの利用を促し、所蔵品のデジタル画像と目録のデータベース化を推奨し、データ入力を完了した状態で納品している。平成29年度には、東京麟祥院のデータおよび、『禅 心をかたちに』展で集まった情報を日本経済新聞社から受領し整理中。

## 2. 資料の収集・整理・公開

### 資料室所蔵品の整理・公開(利用)

当法人がこれまで収集してきた文献資料と新たな購入や寄贈を受けた図書の整理を行なった。蔵書には、他の図書館や資料館にはない貴重なものが含まれており、これらの閲覧も、従来通り内外の研究者や禅に関心のある一般人に無料で開放した。

また、特別展「雪村—奇想の誕生—」(3/28—5/21 東京芸術大学大学美術館・8/1—9/3 MIHO MUSEUM) において弊所所蔵の『蕪図』を出品した。

### WEB版所蔵墨蹟展

当法人が所蔵する書画を、ホームページ上でバーチャル墨蹟展として随時公開中。

### 「特別展覧会」(花園大学歴史博物館と共催)

デジタルアーカイブス事業の成果として、禅宗寺院及び当法人が所蔵する書画を一般公開し、美術に関する講演を行なう墨蹟展を花園大学歴史博物館と共同で開催する。

平成29年12月11日から30年2月3日まで「蘇山玄喬—禅画と墨蹟展」を花園大学

歴史博物館で開催した。

#### **所蔵墨蹟類の保存・修復【50周年関連事業】**

研究所所蔵墨蹟のうち、今後の展覧に耐えられるよう、とくに傷みがひどい優品を優先し、数年かけて修復する。今年度は『渡唐天神』、『燕図』等、10点の修復を行なった。

#### **黒豆データベース公開事業**

当法人がこれまで電子テキスト化してきた禅宗文献のうち、訓注本として発刊してきたものの原文データベースを、簡易検索システムと共にホームページ上で一般に無償公開中で、随時、データファイルを追加する。但し、今年度の追加登録はなし。

#### **誠拙周樗禅師墨蹟資料収集**

大本山円覚寺中興大用国師誠拙周樗禅師 200年遠諱（平成31年正当）に合わせ、円覚寺の依頼により、共同で禅師の書画墨蹟資料を収集し、情報を整理した上で墨蹟集を刊行する。遠諱刊行委員会によって選定された書画の所蔵者には、年度内に掲載及び撮影の依頼し、すべての所蔵者から許可を得たので、平成30年度より撮影と正式調査を開始する。

#### **問い合わせに関する回答**

資料の出典や解説等について、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせが数多く寄せられる。それらの回答に無料で応じた。文書で行なった回答には以下のような質問が寄せられた。

禅語で無中有動、無中有道、どちらもあるのでしょうか？（個人）／曹洞宗と臨済宗2つの坐禅の違いについて（法人）／大用国師の頂相賛について（寺院）／五体投地の定義について（個人）／白隠禅師坐禅和讃の「悟了同未悟」と云う言葉について知りたい（個人）／日本の禅寺で公案を学びたい（海外個人）／「祝望」の語について（寺院）／釈宗演の墨跡の読みと意味について（個人）／間宮英宗老師の略歴（個人）

ほか、墨蹟や落款の読みなどを含め35件。その他電話による質問多数。

### **3. Wikipedia のデータ修正・登録事業**

インターネット上の電子辞書サイト(Wikipedia)の、禅や禅文化に関係する部分を見直し、データの修正などを行なった。

## **〈3〉 広報・普及活動**

### **1. 季刊『禅文化』の刊行**

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は以下の号数を発行した。

244号 特集「袈裟と法衣」

245号 特集「白隠禅師シンポジウム—京都—」

246号 特集「禅寺と庭」

247号 特集「現代における坐禅とマインドフルネス」

主な配布先は寺院、一般、花園大学後援会など。購読会員数2,848名。

なお、243号より花園会館と南禅会館の客室に常備いただいている。

## 2. 研究成果の刊行

### 中国禅宗史・禅語録研究班の成果

- ①【重版】 『語録のことば』2刷500部

### 日本禅宗史・禅語録研究班の成果

- ①訓注『懶齋集』 訓注：能仁晃道 発行：平林寺 (平成29年10月刊行)  
初版700部。平林寺中興開山鉄山宗純禅師400年遠諱記念として発行。

### 禅宗経典研究班の成果

- ①【重版】 『禅宗経典』10,000部  
②【重版】 新修第2版『臨済宗勤行聖典』2刷500部

### マルチメディア研究班の成果

- ①2018年禅語こよみ 埼玉平林寺所蔵品より (平成29年9月刊行)  
初版47,000部 禅のこころを生かしたミニ・カレンダー。  
②『臨済録』研究の現在 禅文化研究所編 (平成29年6月刊行)  
初版300部。「臨済禅師1150年遠諱記念『臨済録』国際学会の記念論文集」。  
③【重版】 『十牛図』14刷1500部

## 3. 公開講義「禅思想の諸問題」 [講師 西村恵信(花園大学名誉教授)]

前所長による講義で、『毒語注心経』(東嶺円慈注)をテキストに一般社会人を対象に禅の基本思想を平易に教える。毎週火曜日開催を原則とし、今年度は43回開催した。約20名が参加。

## 4. ホームページの運営とコンテンツの充実

### 禅文化研究所ホームページの運営とコンテンツの充実

ホームページのコンテンツ更新および連動している臨黄ネット御用達市場にある「禅文化研究所オンラインショップ」の商品登録などを行なった。また、ホームページをスマートフォンやタブレットにも対応(レスポンシブ化)した。

### 臨黄寺院ネットワークの運用協力

臨済禅を世界に発信する公式サイトである臨黄ネットの情報更新及びコンテンツ制作を行なった。毎月更新している禅語の解説には、禅文化研究所発行の書籍から選出している。

## 5. 公開講演会等

### 公開講演会

『蘇山玄喬 一禅画と墨蹟展』の記念講演会として、下記の講演会を実施した。

- ◆平成30年1月18日(木)13:00~14:30

「蘇山玄喬禅師—その人と行履—」 瀧瀬尚純(花園大学国際禅学研究所研究員)

### 教化・運営の実践講座(サンガセミナー)

寺院の公益性が求められるなか、僧侶や寺族が、より踏み込んだ知識や技能を身につけ、寺院の活性化につながるための実践講座。平成29年度は京都で9のセミナーを開講し、一般も含め約161名が受講した。

## 6. 広報・普及

研究成果としての刊行物を、各種媒体を通して広報し、直販、寺院売店、書店の各ルートを通じて普及促進した。9月より通販大手のアマゾンと直取引を開始し、その売上はトーハンや日販と比肩している。

また、ブログ禅、メールマガジンの発行、あるいは Twitter や Facebook などを利用して、より広範囲に普及した。今年度も一般向けの新刊点数が少なかったことから書店への積極的な営業活動ができなかったが、「雪村－奇想の誕生－」展、「今を生きる禅文化」展（高知県立歴史民俗博物館）、「駿河の白隠さん」展（静岡市美術館）など、各館のショップにて書籍・グッズ類を販売したほか、遠諱事業の講演会などに出展し、関連書籍の販売を行った。

現在、売店等で頒布を依頼している本山・寺院は以下の通り（業者委託分含む）。  
妙心寺（花園会館）／建長寺／方広寺／永源寺／天龍寺／相国寺（承天閣美術館）／建仁寺／佛通寺／龍安寺（妙心）／鹿苑寺（相国）／慈照寺（相国）／神勝寺（広島・建仁）／酬恩庵（京田辺市・大徳）／東慶寺（鎌倉・円覚）／東京国立博物館／MIHO 美術館（滋賀）／湯木美術館（大阪）

## Ⅱ．収益・共益等事業

### 〈1〉ソフト開発・販売等事業

#### 1. 宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを発売中。宗門を中心に仏教諸宗への販売促進。DM（ダイレクトメール）やネット上のアドワーズ広告等を行なった。最新の Windows10 にも既に対応済み。

#### 2. オーダー型管理システムの構築

##### **東福寺派管理システムの構築**

平成 29 年 9 月に運用開始し、30 年 3 月に納品した。

##### **妙心寺派布教師会管理システムの運用サポート**

構築済みシステムの運用をサポートした。

##### **妙心寺派奉賛会管理システムの構築**

平成 29 年 3 月より構築を開始し、平成 30 年に納品予定。

##### **南禅寺派管理システムの運用サポート**

システムの機能追加要望に対応した。

##### **建長寺派管理システムの運用サポート**

システムの機能追加要望に対応した。

##### **曹洞宗京都府宗務所管理システムの運用サポート**

構築済みシステムの運用をサポートした。

##### **曹洞宗福井県宗務所管理システムの運用サポート**

構築済みシステムの運用をサポートした。

##### **天龍寺派管理システムの運用サポート**



構築済みシステムの運用をサポートした。

#### **佛通寺派管理システムの運用サポート**

構築済みシステムの運用をサポートした。

#### **真言宗神奈川宗務支所システム開発**

システムの機能追加要望に対応した。

#### **青蓮院管理システムの運用サポート**

システムの機能追加要望に対応した。

#### **藏春寺管理システムの運用サポート**

構築済みシステムの運用をサポートした。

#### **永保寺管理システムの構築**

平成 30 年 3 月に運用開始し、30 年 5 月に納品予定。

### **3. 宝物管理システム「禅の至宝」Windows 版の開発と販売**

一般寺院がデジタルアーカイブデータを管理するための宝物管理システム「禅の至宝」Windows 版の開発を行ない発売中。

### **4. 出版物頒布**

他社から委託を受けた禅に関する出版物をホームページやDMなどで案内し頒布した。  
主な取扱い品：「禅の語録」シリーズ（筑摩書房）、「日本の心 日暦」・「茶禅一如 日暦」・  
「干支色紙」（以上千真工芸）、「見てわかる仏事」（臨済宗青年僧の会）、「無文老師法話集」  
（アートディズ）、「送喪儀」（連合各派布教師会）、「版画 十牛図」（まつ九）等

## **〈2〉 共益事業**

### **1. 臨黄合議所事務局**

#### **○年間会議**

平成 29 年 4 月 10 日（月） 理事会（大本山南禅寺）  
平成 29 年 9 月 4 日（月） 理事会（大本山南禅寺）  
平成 29 年 10 月 24 日（火） 移動理事会（大本山国泰寺）  
平成 30 年 1 月 24 日（水） 理事会（新都ホテル）

#### **○臨済禅師 1150 年・白隠禅師 250 年遠諱事業**

##### **①白隠禅師シンポジウム**

###### **【京都会場】**

日時：平成 29 年 5 月 12 日（金）  
会場：花園大学教堂（京都市中京区）  
内容：提唱式講演「白隠前後無白隠」龍澤僧堂師家 後藤榮山老師  
発表 9 名によるレポート発表  
講評と総括 芳澤勝弘氏 野口善敬氏  
来場数は 140 名であった。

###### **【名古屋会場】**

日時：平成 29 年 6 月 22 日（木）  
会場：熱田文化小劇場（名古屋市熱田区）

内容：講演「美濃の白隠」芳澤勝弘氏  
提唱『毒語心経』正眼僧堂師家 山川宗玄老師  
二人への質疑応答

来場数は200名であった。

【福岡会場】

特別展示「白隠さんと仙厓さん」

会場：九州国立博物館 4F 文化交流展示 関連展示室第11室

期間：平成30年1月1日（月）～2月12日（月） 38日間

協力：臨済宗黄檗宗連合各派合議所、臨済宗妙心寺派、福岡市美術館、西日本新聞社

内容：九州の地に遺されている白隠と仙厓の代表的な禅画や墨蹟等28点を展示、会期中に記念講演会（玄侑宗久氏・芳澤勝弘氏）などのイベントも開催した。

総入場者数は32,021人であった。

②その他

花園大学国際禅学研究所と共催で以下の白隠フォーラムを開催した。

白隠フォーラム in 大分 平成29年9月30日（土）

○「臨黄会報」の発行（47号・48号）

○第13回臨黄教化研究会の実施 平成30年2月13日・14日（花園大学）

○臨黄互助会の促進

○中国仏教界との交流（日中臨黄友好交流協会）

第12回日中禅僧交流（平成29年9月20日～28日）の実施。

○会議等の事務処理

## 2. 寺院委託出版

①『大雅禅師図録』聖澤院発行／平成29年4月

②『暮雲軒和歌集』妙心僧堂発行／平成29年7月

③『玄龍録』平林僧堂発行／平成29年3月

④『獨妙禅師年譜』龍澤僧堂発行／平成29年10月

⑤『長岡禅塾物語』長岡禅塾発行／平成29年11月

⑥『妙用禅師遺徳集』徳源僧堂発行／平成29年11月

## 3. 「ジャポニスム2018」禅関連事業

フランス・パリで開催される「ジャポニスム2018」における「禅文化週間」の事務局を担当する。期間は2018年10月2日～7日。禅を映像やパネルで紹介するほか、坐禅体験や写禅語、さらに特別講演を行なう。臨済禅紹介のビデオや専用リーフレットを制作中。

## 4. 引導法語データベースの公開

妙心寺派教学部と共同で制作した臨黄ネット寺院会員サイト内にある「引導法語データベース（332法語）」を公開している。今年度は更新していない。